

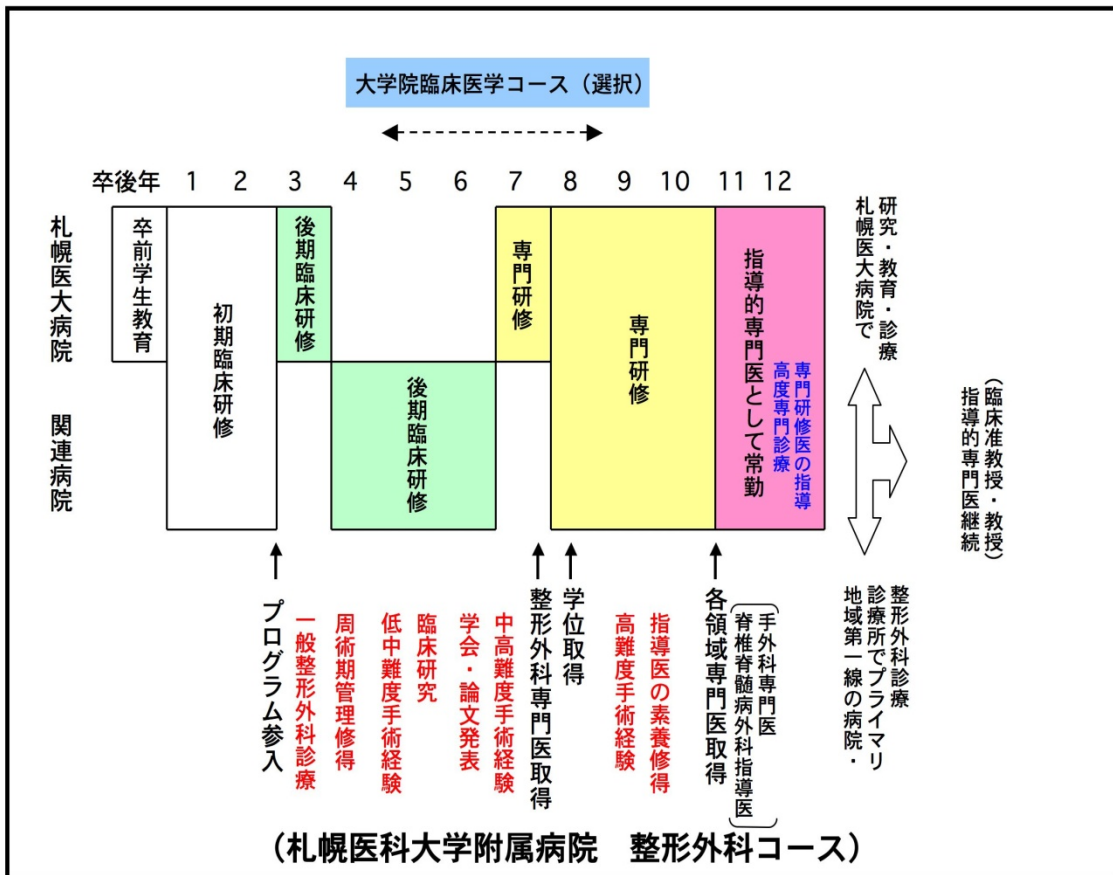
整形外科

整形外科コース

(1) コースの全体像

初期研修2年目の研修は札幌医科大学附属病院で行うことを推奨する。後期研修（4年間）では、整形外科全般にわたる基本的な知識と技術を習得することを研修の目的とする。1年目は札幌医科大学附属病院で、2,3,4年目は関連基幹病院で指導医の下に多くの症例を経験する。5年目（卒後7年）は札幌医科大学附属病院で研修を行い、習得した知識や技術の確認と、専門分野の選択を行う。同時に日本整形外科学会専門医を取得する。希望者は大学院臨床医学コースに入り学位を取得する。その後は、札幌医科大学附属病院や関連病院で専門性を活かした臨床研修を行い、サブスペシャリティの確立を目指す。専門分野に応じて、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医や日本手外科学会専門医など、各領域の専門医を取得し、高度な専門性を身につけた指導医としての素養を身につける。

なお、本コースの一部は、他コースの一部も選択できる。



2) コースの概要

コース名:札幌医科大学附属病院 整形外科コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
札幌医科大学附属病院	整形外科	整形外科一般、脊椎外科、人工関節置換、上肢の外科、股関節外科、膝関節外科、足の外科、肩関節外科、スポーツ医学、骨軟部腫瘍、小児整形外科	21	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術、上肢の外科、下肢の外科、肩関節外科、骨軟部腫瘍、小児整形外科の周術期管理と手術経験。 他コースの研修医も研修可能。	15	4～5年
旭川厚生病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 人工関節置換 上肢の外科 肩関節外科	4	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術、上肢の外科、肩関節外科の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	1	1～3年
釧路赤十字病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 人工関節置換	2	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1～3年
砂川市立病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 人工関節置換 上肢の外科 肩関節外科	4	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術、上肢の外科、下肢の外科、肩関節外科、整形外科救急外傷の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1～3年
滝川市立病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 人工関節置換	3	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術、整形外科救急外傷の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1～3年
千歳市民病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 人工関節置換 肩関節外科 膝関節外科	2	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術、整形外科救急外傷の周術期管理と手術経験。 他コースの研修医も研修可能。	1	1～3年
道立江差病院	整形外科	整形外科一般	1	一般整形外科の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	1	1～3年
函館五稜郭病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 人工関節置換 上肢の外科 股関節外科 膝関節外科 足の外科 肩関節外科 小児整形外科	5	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術、上肢の外科、下肢の外科、肩関節外科、小児整形外科の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1～3年
市立室蘭総合病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 人工関節置換	4	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術、整形外科救急外傷の周術期管理	1	1～3年

		肩関節外科		と手術経験。他コースの研修医も研修可能。		
留萌市立病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 人工関節置換	2	一般整形外科の研修 人工関節置換術、脊椎手術、整形外科救急外傷の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1～3年
帯広協会病院	整形外科	整形外科一般 脊椎外科 膝関節外科	2	一般整形外科の研修 脊椎手術、下肢の外科、整形外科救急外傷の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	1	1～3年
JR 札幌病院	整形外科	整形外科一般 人工関節置換 下肢の外科	2	一般整形外科の研修 人工関節置換術、下肢の外科の周術期管理と手術経験	1	1～3年
北海道立小児総合医療療育センター	整形外科	小児整形外科	1	小児整形外科の周術期管理と手術経験	2	1～3年
北海道済生会小樽病院	整形外科	整形外科一般 脊髄外科 人工関節置換 外傷	3	一般整形外科の研修。 脊髄外科、人工関節置換、外傷等の研修。他コースの研修医も研修可能。	2	1～3年

(3) コースの実績

2010年の札幌医科大学附属病院整形外科・関連病院合わせたコース全体の手術症例数は整形外科関連手術10,004例であり、受け入れ人数36名が整形外科専門医を取得するのに十分な実績を有している。また、2009年のコース全体の脊椎脊髄外科手術症例数は1,305例、手外科手術は2,772例と脊椎脊髄外科指導医、手外科専門医を取得するのに十分な実績も有している。

(4) コースの指導状況

札幌医科大学附属病院整形外科には16名の整形外科専門医、2名の手外科専門医、4名の脊椎脊髄病外科指導医がおり、また関連医療機関にも整形外科専門医が常勤して日本整形外科学会専門医制度による研修施設の認定を受けている。整形外科専門医に欠員が発生した場合には、優先的に大学病院あるいは他の関連医療機関から整形外科専門医が派遣され、学会認定研修施設の資格は維持される。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本整形外科学会
資格名	整形外科専門医
資格要件	<p><研修期間> 研修期間は、臨床研修期間を含め6年以上とする。 臨床研修期間を除く研修期間のうち3年間は、認定された複数の研修施設において、専門医の指導のもとで臨床研修することを必要とする。</p> <p><研修内容> 研修の内容は「整形外科卒後研修ガイドライン」による。 全研修期間中に主発表者として1編以上の論文を学術雑誌に掲載するとともに、主発表者として1回以上の学術集会での発表を行うことを必要とする。</p>

	<p>所定の用紙を用いて、診療録を作製する。これらは卒後研修ガイドラインに掲げられた研修内容に該当する症例であることを必要とする。</p> <p>研修期間中に日本整形外科学会が主催または認定する教育研修講演を受講し、所定の手続きにより 30 単位を取得する。</p> <p>全研修期間中の研修内容等を、所定の整形外科研修記録および研修医手帳に記載する。</p>
--	--

<p>学会の連携等の概要</p> <p>当該学会主催の年次学術集会等に積極的に参加し、整形外科専門的知識を習得。また、専門医を取得した研修医に対しては、サブスペシャリティ獲得のため、講演会等に積極的に参加を促し、全国レベルの知識・技能を補完する。</p>

学会等名	日本整形外科学会
資格名	日整会認定リウマチ医
資格要件	<p>認定医資格審査の申請には、日整会整形外科専門医で次に定める単位を 3 年以内に 20 単位取得することを要件とする。</p> <p>日整会が主催する資格取得のためのリウマチ研修会への出席。 夏期 2 日間 基本的事項 14 単位、冬期 1 日間 最新情報 6 単位</p>

<p>学会の連携等の概要</p> <p>当該学会ではリウマチ学を専攻する医師の養成を目的として、年次学術集会及び講演会が開催される。この学会、講演会へ積極的に参加し、連携病院で補えきれなかった全国レベルの知識・技能を補完する。</p>

学会等名	日本整形外科学会
資格名	日整会認定スポーツ医
資格要件	<p>日整会が主催する資格取得のためのスポーツ医学研修会（総論 A）への出席、または、これと同一内容で行われる日本医師会主催あるいは日本体育協会主催の研修会への出席（21 単位）。</p> <p>日整会が主催する資格取得のためのスポーツ医学研修会（総論 B および各論）への出席（14 単位）。</p>

<p>学会の連携等の概要</p> <p>当該学会ではスポーツ整形外科学を専攻する医師の養成を目的として、年次学術集会及び講演会が開催される。この学会、講演会へ積極的に参加し、連携病院で補えきれなかった全国レベルの知識・技能を補完する。</p>

学会等名	日本整形外科学会
資格名	日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
資格要件	<p>認定医資格審査の申請には次に定める単位を 3 年以内に 24 単位以上取得することを要件とする。</p> <p>(1) 日整会が主催する資格取得のための脊椎脊髄病研修会への出席 1 回 2 日 12 単位。</p> <p>(2) 脊椎脊髄病に関連する学会への出席 1 回 1 単位。ただし、6 単位までとする。</p> <p>(3) 臨床経験 10 症例 6 単位。ただし、10 症例を超える場合も 6 単位までとする。</p>

学会の連携等の概要

当該学会では脊椎脊髄病学を専攻する医師の養成を目的として、年次学術集会及び講演会が開催される。この学会、講演会へ積極的に参加し、連携病院で補えきれなかった全国レベルの知識・技能を補完する。

学会等名	日本脊椎脊髄病学会
資格名	日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医
資格要件	資格審査は、下記の要件を基準とする 1. 日本整形外科学会脊椎脊髄病医であること 2. 日本脊椎脊髄病学会に入会后4年以上を経過していること 3. 手術症例数が200例以上（執刀医または第一助手）であること。 なお、症例の内訳が、頰椎部が10%以上、腰椎部が30%以上であること、また、代表的執刀手術の手術記録（コピー可）を30例提出のこと。 4. 脊椎脊髄に関連した業績（学会発表、講演、論文、著書など）5編以上。 5. その他、見識や指導力を含めて、理事会が要請する要件。

学会の連携等の概要

当該学会では脊髄病学を専攻する医師に対する指導者の育成を目的として、年次学術集会及び講演会が開催される。この学会、講演会へ積極的に参加し、連携病院で補えきれなかった全国レベルの知識・技能を補完する。

学会等名	日本手の外科学会
資格名	日本手の外科学会認定手の外科専門医
資格要件	<手術件数> ①申請者の受け持った患者の内、直接手術に関与した症例：60症例（症例一覧表の提出を要する） ②申請者が術者として手術を行った症例：10症例（所定の病歴要約の提出を要する） ただし、上記①、②の症例には以下の11項目中6項目以上を含まなくてはならない。 各項目の内容は教育カリキュラムの範囲内とする。 1. 開放創、植皮、皮弁 2. 骨折、脱臼、靱帯損傷 3. 腱損傷 4. 末梢神経障害 5. 先天異常 6. 関節変性性疾患 7. 炎症性疾患 8. 腫瘍性および類似疾患 9. 拘縮 10. 内視鏡手術 11. マイクロサージャリー

学会の連携等の概要

当該学会では手の外科学を専攻する医師の養成を目的として、年次学術集会及び講演会が開催される。この学会、講演会へ積極的に参加し、連携病院で補えきれなかった全国レベルの知識・技能を補完する。